

ちょっと読んでみませんか (令和三年秋彼岸)

第6話 『競争という“才能”』 本源寺副住職 本間健司

『ちよつと読んでみませんか』も本号で第60話を迎えました。コロナ禍のなか様々なことを思い巡らせましたが、ひとつの形として、第1話から第50話までを製本化して、皆さまにお配りすることと致しました。

出来れば年内か来年の初旬にはお渡し出来ればと取り掛かっているところです。どうぞ楽しみにお待ちいただければ幸いです。

さて、感染拡大との兼ね合いで、多くの議論を呼びました東京オリンピック・パラリンピックも、無事？閉会しましたね。日本代表選手が多くのメダルを獲得したこともあり、明るく前向きな気持ちで観戦された方も多いのではないのでしょうか。

私も子供の頃からスポーツ観戦はとても好きで、オリンピックに限らず、普段から様々なジャンルのスポーツを楽しんで観ています。でも実は、たまに思うことがあります。

「自分には、あんなに辛い練習は出来ないな…」と。

一流スポーツ選手がインタビューを受けた際に、よく話していますよね。

「決して夢をあきらめないで下さい。勝ちたいという思いを持ち続けて努力を続ければ、いつか必ず結果が付いてきます！」と。

それが簡単なことでは無いということを皆知っているから、トップアスリートは世間から称賛されるわけですが、一方、私は「そこまで強い思いを持ってない人は敗者なんだろうか」と疑問に感じてしまう時もあったのです。

先日、ふと立ち寄った書店で、そんな疑問を解決するヒントを与えてくれる一冊の本に出会いました。

それは、『さあ、才能(じぶん)に目覚めよう』(トム・ラス著―日本経済新聞出版)という本で、人が持つ“才能”を34種類に分類し説明するという内容となっています。そのなかに【競争性】という項目があり、オリンピッククメダリストの姿と重なったのです。【競争性】という才能について次のように説明されていました(要約)。

《【競争性】の原点は、比較することにあります。

あなたは、たとえ自分の目標を達成していたとしても、競争相手を超えていなければ無意味に感じられるのです。…あなたは比較を必要としているのです。比較できれば競争することができ、競争できれば勝つことができるからです。そして、あなたが勝利を手にしたとき、それに勝る喜びはありません。

あなたは数値で測ることを好みます。それは比較を可能にするからです。あなたは競争相手を好みます。なぜなら彼らはあなたを奮い立たせるからです。

あなたは：単に楽しむだけの競争はしません。勝つために競争するのです。》

そうか。「勝ちたい」と強く思えることは“才能”だったのか！

私は率直にそう感じ、納得しました。きつと私には、その才能があまり無いのだろうと。一方、メダリストのようなトップアスリートは、この【競争性】という自らの“才能”を自覚して目いっぱい発揮した人たちなんだろうな、と。

そして、私を勇気づけたのは、本のなかには、【競争性】の他に33種類もの“才能”が挙げられているということです。全て挙げてみましょう。

学習欲 活発性 共感性 公平性 社交性 規律性 収集心 内省 信念 責任感
調和性 分析思考 ポジティブ アレンジ 運命思考 回復志向 原点思考 個別化
コミュニケーション 最上志向 自我 自己確信 指令性 慎重さ 達成欲 着想
適応性 包含 未来志向 目標志向 親密性 成長促進 戦略性

いかがでしょうか。説明までは載せられませんが、何となく自分に当てはまる“才能”がいくつか見出せると思います。そう、【競争性】のように世間では目立たないかもしれないけれど、誰もが「立派な才能の持ち主」だということです。

みょうほうれんげきょう ほけきょう によらいじゅりょうほん

『妙法蓮華經(法華經) 如来寿量品第十六』には、永遠の仏様が、私たちのことを、その“個性(才能)”に応じて導いて下さっていることが、次のように説かれています。(現代語訳)

「如来は、この世をいつも明らかに観て、決して誤りはありません。

それぞれの人には、それぞれの性格や才能・個性があり、欲望があり、仕事や生活があり、また、それぞれの想いや考えがあるものです。

ですから、如来は、それぞれの持つ個性から“光り輝くもの”を発揮させるために、様々な因縁を示し、様々な教えを説きながら導くのです」と。

“光り輝くもの”の原語は、「善根(ぜんこん)」という仏教語です。それは、「長所」であり「才能」であり、そして「仏性(ほとけごころ)」にもつながるものだと思います。

とかく、他人と比べて喜んだり落ち込んだりしてしまうのが私たち人間ですが、もう少し、自分にしかない才能“光り輝くもの”を見つめて認めてあげることが大切では

ないでしようか。

また、「才能とは先祖からの努力の結晶である」という言葉もある通り、才能は決して自分だけのものではなく、ご先祖様からの“授かりもの”だということも忘れてはいけないことでしょう。

お彼岸の機会に、あらためて、ご先祖様を思い、そして自分自身を見つめてみてはいかがでしょうか。そして、周りの人と「あなたはこんな才能があるね！」なんて言い合ってみることも、きっと先祖供養につながるはず。

「ご先祖様、ありがとうございます」と。

合掌 南無妙法蓮華經